

朱記問題は、補修講習で重要といわれた問題

問1． 製造所等の中には特定の建築物から一定の距離を保たなければならないものがあるが、その建築物として正しいものはどれか

大学・短期大学

病院

使用電圧が7,000Vの特別高圧埋設電線

重要文化財である絵画を保存する倉庫

製造所等の存する敷地と同一の敷地内にある住居

問2． 危険物を車両で運搬する場合の基準で次のうち正しいのはどれか

指定数量未満の危険物を車両で運搬する場合は、運搬の基準は適用されない

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、市町村長に届け出なければならない

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、当該車両に標識を掲げなければならない

類を異にする危険物の混載は、一切禁止されている

問3． 学校、病院等の建築物から一定の距離を保たなければならない製造所等の組合せはどれか

一般取扱所・製造所・第一種販売所

製造所・屋外貯蔵所・屋外タンク貯蔵所

一般取扱所・移送取扱所・地下タンク貯蔵所

給油取扱所・屋外貯蔵所・屋内タンク貯蔵所

製造所・一般取扱所・第二種販売所

問4． 法令上、屋外貯蔵所に貯蔵できる危険物の組合せで正しいものはどれか

塩素酸塩類・動物植物油

硫黄・アルカリ金属

有機過酸化物・第2石油類

硝酸・第1種石油類（引火点が0 以上のもの）

アルコール類・引火性固体（引火点が0 以上のもの）

問5． 市町村長等が行うことができる命令として誤っているものは次のうちどれか

製造所等の位置、構造、設備が技術上の基準に適合していないとき 製造所の修理、改造または移転命令

貯蔵所における危険物の貯蔵または取扱いの方法が危険物の貯蔵、取扱いの技術上の基準に違反しているとき 危険物の貯蔵、取扱い遵守命令

許可を受けずに製造所等の位置、構造又は設備を変更したとき 使用停止命令又は許可の取消し命令

公共の安全の維持または災害の発生の防止のため緊急の必要があるとき 製造所の一時使用停止命令又は使用制限命令

危険物保安監督者がその責務を怠っているとき 危険物の取扱作業の保安に関する講習の受講命令

問6． 次図に示す屋外タンク貯蔵所において、保安距離、敷地内距離及び保有空地は？

図は省略

保安距離は、屋外タンク貯蔵所のタンク外面から、保安距離が必要な建築物までの距離

敷地内距離は、屋外タンク貯蔵所のタンク外面から、敷地境界線までの距離

保有空地は、屋外タンク貯蔵所のタンク外面から、直近の建築物・施設までの距離

という感じで、要点は**屋外タンク貯蔵所のタンク外面**である。

問 7 . 製造所等の点検に関する次の記述のうち誤っているものはどれか

点検は 1 年に 1 回以上行わなければならない

点検は製造所等の位置、構造、設備が技術上の基準に適合しているかどうかについて行う

点検はいかなる場合においても危険物取扱者以外の者が行うことはできない

点検の記録は一定期間保存しなければならない

すべての移動タンク貯蔵所は実施対象となっている

問 8 . 危険物取扱者が免状を亡失し、滅失、汚損または破損した場合の再交付の申請で誤りはどれか

当該免状を交付した都道府県知事に申請することができる

当該免状を書都道府県知事に申請することができるき換えた都道府県知事に申請することができる

勤務地を管轄する都道府県知事に申請することができる

破損により免状の再交付を申請する場合は当該免状を添えて申請しなければならない

免状を亡失してその再交付を受けた者は亡した免状を発見した場合はこれを 10 日以内に免状の再交付を受けた都道府県知事に提出しなければならない

問 9 . 市町村長等が製造所等の許可を取り消すことができる場合があるが、次のうち誤りはどれか

完成検査または仮使用の承認を受けないで製造所等を使用したとき

製造所等の位置、構造及び設備に係わる措置命令に違反したとき

変更の許可を受けないで製造所等の位置、構造または設備を変更したとき

製造所等の定期点検に関する規定に違反したとき

危険物保安監督者を定めないで製造所等を使用したとき

問 10 . 次の文の () 内にあてはまる数値の組合せで正しいのはどれか

「屋内貯蔵所において同一品名の自然発火する恐れのある危険物または災害が著しく増大する恐れのある危険物を多量に貯蔵するときは、指定数量の () 倍ごとにかつ、() m 以上の間隔において貯蔵すること」

10 ・ 0.3

15 ・ 0.4

10 ・ 0.2

15 ・ 0.1

20 ・ 0.5

問 11 . 法令上、免状等に関する説明で正しいのはどれか

免状の交付を受けているものは 3 年毎に免状の更新手続きを行わなければならない

免状を破損又は汚損したときは当該免状を交付した市町村長に書き換えを申請しなければならない

丙種危険物取扱者の免状には取扱うことのできる危険物の種類として「ガソリン・灯油・軽油・重油及びアルコール類」と記載されている

免状を亡失して再交付を受けた者が亡失した免状を発見した場合は、これを10日以内に免状の再交付を受けた都道府県知事に提出しなければならない

免状を亡失したときは居住地または勤務地を管轄する都道府県知事に再交付の申請を行うことができる

問12. 危険物保安監督者の責任に関する次の文の下線部A～Dで誤っている箇所みの組合せはどれか

「政令で定める製造所等の所有者等は甲種危険物取扱者、乙種危険物取扱者、(A) 丙種危険物取扱者で(B) 3ヶ月以上危険物の取扱いの実務経験を有する者の中から危険物保安監督者を定め、その者が取扱うことのできる危険物の取扱作業に関して保安の監督をさせなければならない。また、製造所等の所有者等は危険物保安監督者を選任したときは、延滞なくその旨を(C) 市町村長等に(D) 届け出なければならない」

- AとB
- BとC
- CとD
- DとA
- DとB

問13. ()に該当する語句として正しいものはどれか

「特殊引火物とは、ジエチルエーテル、二硫化炭素その他一気圧において、発火点が100 以下のもの又は()のものをいう」

- 引火点が - 20 以下
- 引火点が - 40 以下
- 引火点が - 20以下で沸点が40 以下
- 引火点が21 以下
- 引火点が21 以上70 未満

問14. 危険物の運搬の技術上の基準について誤っているものはどれか

- 運搬容器は収納口を上方向に向けて積載しなければならない
- 運搬容器の外部には原則として、品名・数量などを表示して積載しなければならない
- 指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は当該車両に「危」の標識を掲げなければならない
- 危険物または危険物を収納した運搬容器を著しく摩擦、または動揺を起こさないように運搬しなければならない
- 指定数量の10倍以上の危険物を車両で運搬する場合は、所轄消防署長に届け出なければならない

問15. 製造所等における危険物の取扱いに関する記述のうち正しいものはどれか

製造所等の所有者の指示があった場合には、危険物取扱者以外の者でも危険物取扱者の立会いなしに危険物を取扱うことができる

危険物取扱者以外の者が危険物を取扱う場合には指定数量未満であっても、甲種または当該危険物を取扱うことのできる乙種危険物取扱者の立会いが必要である

- 丙種危険物取扱者が立ち会うことができるのは、自ら取扱いができる危険物に限られている
- すべての乙種危険物取扱者は、丙種危険物取扱者が取扱う危険物を自ら取扱うことができる

免状の交付を受けている者は、指定数量未満であればすべての危険物を取扱うことができる

問16 . 次の文の () 内に当てはまる語句の組合せとして正しいものはどれか

「木炭が完全燃焼すると () を生じるが、不完全燃焼の場合は () も生じる。また、炭素と水素の化合物である炭化水素が完全燃焼すると、() のほかに () も生じる」

- 炭素 ・ 二酸化炭素 ・ 一酸化炭素
- 水蒸気 ・ 炭素 ・ 二酸化炭素
- 一酸化炭素・ 水 ・ 炭素
- 二酸化炭素・ 一酸化炭素 ・ 水
- 水 ・ 二酸化炭素 ・ 一酸化炭素

問17 . 次の文の () 内に当てはまる語句で正しいものはどれか

「二硫化炭素が完全燃焼すると () になる」

- 水蒸気 と 二酸化炭素
- 二硫化いおう と 二酸化炭素
- 二硫化いおう と 水蒸気
- 一酸化炭素 と 二硫化いおう
- 一酸化炭素 と 二酸化炭素

問18 . 静電気の帯電について次のうち誤っているのはどれか

- 引火性液体に帯電すると電気分解する
- 電気の不導体に帯電しやすい
- 一般に合成繊維製品は綿製品より帯電しやすい
- 湿度が低いほど帯電しやすい
- 帯電防止として接地する方法がある

問19 . 有機物の燃焼に関することで正しいものはどれか

- 燃焼中に発生する一酸化炭素に毒性はない
- 炭素の含有量が多くなるほどすすの発生は多くなる
- ガスを燃焼させた場合は、すすは発生しない
- 空気量が少ないほどすすの発生は多くなる
- 不完全燃焼するほど二酸化炭素の発生は多くなる

問20 . 次のうち誤っているのはどれか

- ガソリンは種々の炭化水素の混合物である
- 分子式は同じであるが性質の異なる化合物を異性体という
- 乾性油はよう素価が高く、状態によっては自然発火の危険性がある
- 鉄が錆びるのは物理変化である
- 固体の物質が空気中の水分を吸収して溶解する現象を潮解という

問 2 1 . 次の液体について引火点及び燃焼範囲の下限値の組合せとして考えられるものはどれか

「ある引火性液体は液温 40 で液面付近に濃度 8 % (容量) の可燃性蒸気を発生した。この状態でマッチの火を近づけたら引火した」

- 引火点 25 燃焼範囲の下限 10 % (容量)
- 引火点 30 燃焼範囲の下限 6 ~ 12 % (容量)
- 引火点 35 燃焼範囲の下限 4 ~ 7 % (容量)
- 引火点 45 燃焼範囲の下限 12 ~ 16 % (容量)
- 引火点 50 燃焼範囲の下限 4 ~ 7 % (容量)

問 2 2 . 熱に関する一般的な説明で誤っているものはどれか

- 比熱とは物質 1 g の温度を 1 K 上昇させるのに必要な熱量をいう
- 熱伝導率の大きな物質は熱を伝えやすい
- 比熱が小さい物質は温まりにくく冷めにくい
- 対流による熱の移動は個体がもっとも小さく、気体がもっとも大きい
- 理想気体の体積は圧力が一定で温度が 1 上昇すると 0 のときの体積の $\frac{2}{3}$ の 1 ずつ上昇する

問 2 3 . 化学反応にともなう反応熱は次のうちどれか

- 中和熱
- 蒸発熱
- 凝固熱
- 凝縮熱
- 融解熱

問 2 4 . 沸点に関する説明として正しいものはどれか

- 沸点の高い液体ほど蒸発しやすい
- 水に食塩を溶かした溶液の 1 気圧における沸点は 100 より低い
- 沸点は外圧が高くなると低くなる
- 可燃性液体の沸点はいずれも 100 より低い
- 水の沸点は 1 気圧においては 100 である

問 2 5 . 消火剤等について次のうち誤っているものはどれか

- 二酸化炭素は完全な不活性ガスで空気より重い性質を利用した消火剤である
- 強化液は水の消火効果に加え、消火後の再燃防止効果である
- ハロゲン化合物はハロゲンが燃焼の負触媒として働くことにより燃焼効果がある
- りん酸塩類を主成分とする消火粉末は建物火災及び電気設備の火災には適用するが、油火災には適用しない
- 水溶性液体用泡消火剤はアルコール等の火災に適用する

問 2 6 . 危険物の類毎に共通する性状として正しいものはどれか

- 第 1 類の危険物は、可燃性の気体である
- 第 2 類の危険物は、可燃性の固体である

第3類の危険物は、可燃性の弱酸性の液体である

第5類の危険物は、酸化性の固体または液体である

第6類の危険物は、可燃性の固体である

問27. 第4類の危険物の性質として正しいものはどれか

一般に熱伝導率が大きいため蓄熱し自然分解しやすい

一般に沸点の低いものは引火しやすい

一般に液比重は1より大きく水中に沈殿しやすい

一般に良導体なので静電気が蓄積しにくい

一般に自然発火しやすい

問28. 液比重が1以上のもののみを掲げた危険物の組合せはどれか

ガソリン・酢酸・重油

ガソリン・重油・二硫化炭素

酢酸・メチルエチルケトン・灯油

ニトロベンゼン・酢酸・二硫化炭素

ニトロベンゼン・灯油・二硫化炭素

問29. メチルアルコールとエチルアルコールに共通する性質として。次のうち誤っているものはどれか

蒸気比重は1より大きい

引火点は常温以上である

水よりも沸点および凝固点が低い

燃焼しても炎の色が淡いため認識しにくい

無水クロム酸と接触すると激しく反応し発火することがある

問30. 第4類の危険物の性状で誤っているものはどれか

常温で液体である

すべて可燃性であり、水に溶けないものが多い

蒸気は空気とわずかに混合した場合でも引火することが多い

液体の比重は1より小さいものが多い

蒸気比重はすべて1より小さい

問31. 自動車用ガソリンについて誤っているものはどれか

水より軽い

オレンジ系の色に着色されている

引火点は-40以下である

自然発火しやすい

燃焼範囲は概ね1.4～7.6%（容量）である

問32. 軽油の性状について誤っているものはどれか

淡黄色はたは、淡褐色に着色されている
水より軽い
蒸気は空気よりわずかに軽い
ディーゼル機関などの燃料に用いられる
引火点は概ね45 以上である

問33 . 動植物油の自然発火について誤っているものはどれか

貯蔵中は換気をよくするほど自然発火しにくい
不乾性油の方が乾性油よりも自然発火しにくい
よう素価の小さいものほど自然発火しやすい
繊維にしみ込んだものが積み重なっているものほど自然発火しやすい
引火点の高低と自然発火とは関係ない

問34 . 泡消化剤の中には水溶性液体用消化剤とその他の一般用消化剤がある。次のうち水溶性液体用泡消化剤でなければ効果的に消火ができないものは次のうちどれか

さく酸
ガソリン
アニリン
二硫化炭素
ベンゼン

問35 . ジエチルエーテルの貯蔵及び取扱いの方法で誤っているのは次のうちどれか

直射日光を避け、冷所に貯蔵する
容器を密閉する
火気及び高温体との接触を避ける
建物の内部に滞留した蒸気は屋外の高所に排出する
水より重く水に溶けにくいので容器等に蒸気の発生を抑制する

回答

問1 : 2、問2 : 3、問3 : 2、問4 : 5、問5 : 5、問6 : 4、問7 : 3、問8 : 3、問9 : 5、問10 : 1
問11 : 4、問12 : 1、問13 : 3、問14 : 5、問15 : 2、問16 : 4、問17 : 2、問18 : 1、問19 : 4
問20 : 4、問21 : 3、問22 : 3、問23 : 1、問24 : 5、問25 : 4、問26 : 2、問27 : 2、問28 : 4
、問29 : 2、問30 : 5、問31 : 4、問32 : 3、問33 : 3、問34 : 1、問35 : 5